

採択企画「大規模災害とコミュニケーション」

(代表者 狩野 恭平)

企画概要

近年、国内のみならず近隣諸国でも大規模な地震や津波が発生しているのにもかかわらず災害を経験していない地域住民は、災害に対する関心が低い。そこで、災害に関する課題について、経営学の観点から調査・研究し、特に被災地域の経験を他の地域にうまく伝えるための仕組みや、「産大生でもできること」をシンポジウムで提案し、これにより、地域住民の意識を変化させ、地域の防災力の向上に繋ぐ。

結果報告

インターネット・書籍のほか、神戸市の人と防災未来センターへ見学、京都府の総合防災訓練に参加、また、新潟県では専門家に話を聞きに行き、地震の被害を受けた現場などを見学。1月のシンポジウム開催のため、内容・告知・記録・ゲスト・場所の5つの役割にそれぞれ分担。内容班はシンポジウムの資料製作、告知班はポスターやチラシの作成や配布、記録はシンポジウム時の写真や動画の撮影、ゲスト班はシンポジウムに招くゲストへのアポイントメント（交通費や謝礼金）、場所班は発表する図書館ホールの下見などに行った。告知に関しては、シンポジウム開催のことを京都新聞と毎日新聞などに掲載していただいた。1月に大学内の図書館ホールでシンポジウムを開催。約140名がシンポジウムに参加した。ボランティア・医療・外国人・文化財と分野別に調査したことをまとめると日頃からの「情報の一元化」「コミュニケーション」が重要であると分かった。近所の人とのあいさつや地域行事への参加など知らない場所へ行って多くの人と交流することによって人のネットワークが広がり社会にとっても自分自身にとってもいいことがあると言える。なので、勇気を出して一歩踏み出すことが重要であると提案した。

感想・まとめ

自分たちの活動は、なにかを集めて寄付したりするものではなく、調査・研究して結論を出し、それを大勢の人前前でシンポジウムをするというものである。人前で報告するためには聴衆に納得してもらうほどの結論が必要であったため、当初は、大規模災害とコミュニケーションが本当につながるのか、シンポジウムで発表するほどの結論がだせるのか不安しかなかった。しかし、調査し、みんなで議論するにあたってだんだん自分なりの答えが見つかり始めると不安ではなく、いいシンポジウムをするという意欲が湧いてきた。最初の方は、活動もゼミの一部の人しか関わっていなかったが、シンポジウム開催日が近

づくにつれて、ゼミの全員が積極的に参加してくれた。シンポジウムは、自分自身は100%発揮できなかったが、シンポジウムで告知の方法・伝えたいことを分かりやすく伝える能力・お客さんを効率的に集める方法などさまざまな能力が身についた。サギタリウスチャレンジを通して様々なことを学ぶことができ、採用していただいた学生部の方に感謝している。

以 上